

26年漁期 するめいか漁獲可能量(TAC)案について

(単位:万トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit					TAC				備考
		水準	動向	23年	24年	25年	26年 (注2)	漁獲シナリオ (管理基準)	23年	24年	25年	26年 (案)	
するめいか	<p>【中期的管理方針】 高、中位にある資源が海洋環境の変化により大幅減少に転じる可能性があることから、資源動向の把握に努めつつ、海洋環境条件に応じた資源水準の維持を基本方向として管理を行う。資源水準の変動に際しては、関係漁業者の経営への影響が大きくなりすぎないように配慮を行うものとする。</p>												<p>【26年TAC設定の考え方】 冬季発生系群及び秋季発生系群について、中期的管理方針に則して、ベースとするABCを漁獲シナリオ②の「親魚量の維持(冬季発生系群19.3万トン、秋季発生系群28.1万トン)」とし、これらの合計値に基づく47.4万トンから、韓国の直近5年平均の漁獲量17.3万トンを控除した30.1万トンをTAC数量とする。</p>
	冬季発生	中位	減少	25.1	27.1	25.1	19.3	親魚量の維持(②)					
	秋季発生	高位	減少	31.7	38.6	39.7	28.1	親魚量の維持(②)					
合計				56.8 (29.7)	65.7 (33.9)	64.8 (32.9)	47.4 (30.1)		29.7	33.9	32.9	30.1	

(注1) 23年のABClimit欄は再評価後の数量、TAC欄は期中改定後の数量。

(注2) 下段()書きについては、日本EEZの値。25年までは我が国EEZにおける漁獲割合から算出。26年は合計値47.4万トンから韓国の直近5年平均の漁獲量を控除して算出。

(注3) 26年のABCは管理期間を1月～12月から4月～3月に変更し、再計算した値。

【資源評価結果】

<参考> Blimitと親魚量

	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ(管理基準)	2014年漁獲量(万トン)	評価		2013年親魚量	Blimit
	水準	動向				5年後に現状親魚量維持する確率	5年後にBlimitを維持する確率		
冬季発生系群	中位	減少	>Blim	ABClimit ① 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	16.8	67%	78%	24.0万トン	親魚量 18.8万トン
				*② 親魚量の維持(Fmed)	19.3	47%	60%		
秋季発生系群	高位	減少	>Blim	ABClimit ① 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	15.1	78%	86%	53.6万トン	親魚量 39.9万トン
				*② 親魚量の維持(Fmed)	28.1	49%	66%		